

パークシャー種の肥育後期における飼料用米 配合飼料給与が発育・肉質に及ぼす影響

わが国の畜産は海外からの輸入飼料に大きく依存しており、近年における輸入穀物価格の大幅な変動や高止まりは養豚経営に大きな打撃を与えています。このため、肥育豚に国産の飼料用米を給与して付加価値の高い豚肉生産を行っている取り組みが見られますが、コストが制限要因となって、飼料用米の配合割合は15～30%程度に留まっています。そこで、高付加価値豚肉生産を目指し、特徴ある豚肉として評価が高いパークシャー種に飼料用米を30%以上の配合割合で給与した場合の発育や肉質に及ぼす影響について検討しました。

☆ 技術の概要

1. 玄米を粉碎した飼料用米(2mmメッシュ)を原物で30%(米30%区)および55%(米55%区)配合する2区を設定し、粗蛋白質含量が13～14%程度(原物)になるようマイロ、大麦、キャッサバミール、大豆粕、菜種粕、フスマ、脱脂米ぬかを用いて飼料設計を行いました。給与試験は、各区7頭の黒豚パークシャー種去勢豚を用いて肥育後期(体重70～110kg)に行いました。
2. 飼料用米を配合した飼料は、トウモロコシ主体の飼料と比較してリジン含量が高く、脂肪酸組成ではオレイン酸の割合が高く、リノール酸の割合が低くなります。
3. 米30%区および米55%区の日増体量はトウモロコシ主体の対照区と同等で、飼料用米の代替により飼料摂取量が低下し、飼料要求率が改善されました(図1)。
4. 枝肉背脂肪厚等の枝肉形質や筋肉内脂肪含量、ロース芯肉色、皮下脂肪内層脂肪色などは対照区と同等の成績が得られました。
5. 飼料用米割合55%飼料を給与することにより、皮下脂肪内層のオレイン酸割合は対照区と同等の値を示しましたが、リノール酸割合は低くなりました(図2)。



写真1 粉碎玄米 (2mmメッシュ)

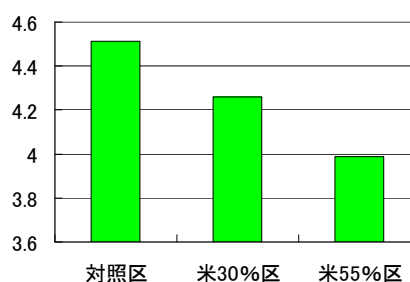


図1 飼料要求率

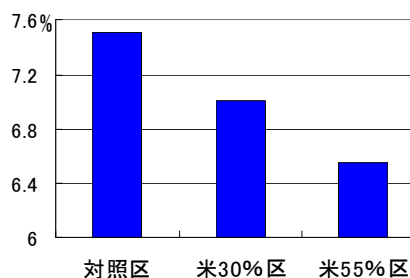


図2 リノール酸割合

☆ 活用面での留意点

飼料用米は、岩手県農業研究センターで収穫された飼料用米専用品種「つぶゆたか」の玄米を飼料米破砕機(デリカ製 DHC-4000M)で2.0mm以下に破砕したものを供試しています。詳細は、岩手県農業研究センター畜産研究所・家畜育種研究室 佐々木康仁(TEL:019-688-7315)にお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)